

教職ゼミにおける模擬授業の取り組み（2）

—道徳を中心にして—

矢田貞行*

はじめに

前回の報告書において、3年次専門演習Ⅰ（春学期）のゼミでの保健の模擬授業を中心にした取り組みについて紹介した。今回は、秋学期に開講されている専門演習Ⅱ（平成27年度）における道徳の模擬授業を中心に授業報告を行うことにする。

中学校の教員志望の学生にとって、保健体育の学習指導力に加えて、教育実習において近年特に道徳の指導力が問われてきている。これは、言うまでもなく学習指導要領において『生きる力』の三要素の1つである「豊かな心を培う」ことが中学生に求められていることに他ならないが、最近の道徳教科化の動きがそれに拍車をかけている。教科化の取り組みは、多くの学校においてまだ検討中であり、模索段階ではあるが、学生の教育実習中に中学校を巡回指導して訪れると、週1時間の「道徳の時間」をきちんとこなすことはどの学校でも行われているようである。また、実際学生の多くが「道徳の時間」の授業を担当し、研究授業を行っている。

当然のことながら、大学の方でもこのようなことから、中学校教員免許状必修でもある道徳教育に関し、然るべき対応を講じる必要が生じてきている。勿論、本学部でも教職に関する科目（「道徳指導法」）等の授業においても、教職履修学生を対象に模擬授業の実施が行われている。しかし、保健体育の場合と同じく例年学生数が多く（80名～100名程度）、1人で教材研究を行い、学習指導案を立てて模擬授業を実施することは不可能に近く、いくつかのグループに学生を分け、その中でグループワークを中心にして授業を分担しているのが実情である。

そこで本ゼミでは、3年次秋学期のスポーツ健康科学部「専門演習Ⅱ」（演習科目）において、平成25年度秋学期（当時は人間健康学部）から道徳の模擬授業の実施に取り組んでいる。（なお、高校教員希望者は、道徳の授業がないため、保健の模擬授業を春学期に引き続き行っている。）

1. シラバス

シラバスについては、表1に示す通りである。

表1. 平成27年度秋学期 専門演習Ⅱシラバス（矢田ゼミ）

テーマ：教員としての学習指導力の基礎を培う

【1. 授業の目的】

教員として求められる基礎的な資質能力の1つに、学習指導力がある。本授業では、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行うことを通して、学習指導力の基礎を培う。なお、Ⅱでは中学校の道徳の模擬授業を行う。

* 東海学園大学スポーツ健康科学部教授

【2. 到達目標】

- 教育学・教科教育学的知見に基づく基礎的知識・技能を修得し、活用することができる。
- 明確な教師像を持ち、基礎的知識・技能を駆使して教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。

【3. 授業計画】

- 1 週 授業の進め方
- 2 週 学習指導案の立て方
- 3～6 週 教材研究・学習指導案作成＋個別指導①～④
- 7～13 週 模擬授業①～⑦
- 14～15 週 卒論指導

【4. 授業方法】

講義と実技（模擬授業）ならびに個別指導を中心に行う。

【5. 事前準備学習】

「学習指導要領中学校道徳」を熟読しておく。

【6. 教科書】

中学校道徳指導書、教師用指導書（明治図書）等を使用する。

【7. 参考書】

開講時に指定する。

【8. 評価の方法】

学習指導案ならびに模擬授業に基づき、総合的に評価する。

2. 学生による教材研究、学習指導案の作成

まず最初に、中学校の道徳の学習指導案の立て方について講義を行うことにしている。3年次の学生は、まだ教職に関する科目の「道徳指導法」が秋学期開講のため、並行して学習する形となっている。このようなことから道徳の指導法に関しては、まったく初心者と言っても良いが、学習指導案の立て方自体は、いくつかの「保健体育科指導法」などの授業を通じて、基本的な授業理論・構成法等に関する知識・理解は得ているので、ある程度学習の転移が可能になっている。

本ゼミでは、教師用指導書等に基づきながら簡単な説明に止め、先輩の模擬授業の様子を撮影したDVDを鑑賞したり、個別指導を充実させることで教材研究を進めることにしている。

また、保健の模擬授業の時と同様に、教材研究や学習指導案の作成に時間を割くよりはむしろ、とにかく45分間の模擬授業を1度やってみることに主眼を置いている。したがって、最初から道徳の時間で用いる副読本のみを与えて、それだけを基に教材研究・指導案作成を行わせるには時間的余裕もないので、学生には予め朱書きの教師用指導書や学習指導案例を配布し、それらを参考にしながら、各自教材研究・指導案作成を行うよう指示している。

さらに、模擬授業実施の1週間前に担当学生と再度、面談の機会を持つことにしている。その時までは学習指導案の完成と板書計画、ワークシートも用意させるようにしている。なお、フラッシュカードや他の関連資料等を使用する場合は、それを持参することも求めている。その際、学生は授業の概要を説明し、授業の展開に従ってどのように説明をし、板書の仕方やフラッシュカード使用時期、発問の仕方、グループワークのやり方、ワークシートの活用等について、打ち合わせることにしている。

とりわけ、道徳の授業において重要なことは、単に授業の中で教師が教科書を読み、生徒が説明を聞いて理解をするという類のものでない。生徒が中心となって教師と共に授業を創り、規範意識を培い道徳性を育成していくのが、本来の授業の在り方である。したがって、生徒の主体的学習を促すにはどのようにするかという、今日のアクティブ・ラーニングの側面も授業に取り入れるよう、生徒間のグループワークや生徒の意見や考えも積極的に取り入れた授業展開を工夫するよう、求めている。

【資料 1 学生の学習指導案、ワークシート及び副読本】

道徳学習指導案

指導者 ◇◇◇◇◇◇

1. 主題名 「人のフリみて」

2. 主題設定の理由

(1) 指導内容

今こうして存在していること。そのことが実は、多くの支えによって成り立っていることに気づく。しかし、大切なことは、気づくだけではなく、その支えに気づいた時、素直に感謝の念が内面に込み上げてくるかどうかである。「ありがとう」というひと言が、自然に口をついて出るような、そんな自分の善さを見つける。

(2) 生徒の実態について

自分が示した親切に相手が謝意を示さないとムカついたりする一方で、他者の善意や支援に素直に「ありがとう」と言えないのが、思春期の若者の傾向である。昨今、周囲の善意に気づきもしないような生徒が散見される。「ありがたい」という思いが湧く以前に、他者の善意や支えを受け止めるアンテナが鈍っている。様々な生徒の実態に応じて、教師が共に考え指導していくことが必要である。

3. ねらい

感謝の心は、他者の厚情に触れた時の自然な感情であることに気づき、その気持ちを素直に表そうとする道徳的態度を育成する。

4. 展開

過程	学習活動	発問と生徒の反応	留意点
導入	ことわざの意味を把握する	① 「人の振り見て、わがふり直せ」ということわざを知っていますか。	短時間で終わり、時間をかけない。
展開	副読本を読む。(p.29 1 行目まで) ●バス内の光景に生徒が感じた印象を語り合う。 副読本を読む。(p.29 2 行目から最後まで) ●「ありがとう」の言葉にまつわる生徒自身の体験について、語り合う。	② 「副読本を読み、学生と運転手は、どんなやり取りをしましたか。」 ③ 「バス内でのやり取りに、どのような印象を持ちましたか。」 ☆筆者と同じように、爽やかに感じた。 ☆自分にはできないと思った。 ④ 「今読んだ所の中で、『ありがとう』と、どんなとき、どんな人に言っていましたか。」 ⑤ 「『ありがとう』という言葉にまつわる体験があれば、そのエピソードについて聞かせて下さい。」	筆者は、○○○な気持ちになった。フラッシュカード、板書、ワークシートを記入させる。 筆者がその「フリ」を見て爽やかに感じた車内の場面を、生徒自身がどのように捉えているかについて問うことで、感謝の思いが醸し出す雰囲気を感じ取る。 範読する。 筆者は、○○○な気持ちになった。 フラッシュカード、板書、ワークシートに記入する。 机間指導を行い、生徒に板書、発表させる。

	●「ありがとう」という言葉が持つ力について考える。	⑥ 「『ありがとう』の言葉には、どんな力があると思いますか。」	<p>個人で考えた意見をワークシートに記入後、グループワークで話し合う。リーダーを決め、意見をまとめて発表させる。</p> <p>資料全体のエピソードを踏まえ、「ありがとう」の言葉が人と人の関係に潤いを与えることについて、それぞれの体験を通じて気づいていく。筆者は、様々な見解を述べているが、ここでは生徒がそれぞれに想起している「ありがとう」の言葉から、感謝の意味を引き出す。</p>
終末	●「ありがとう」の言葉を使って、文章化する。	⑦ 「ありがとう」という言葉を今後、どのようなときに使っていきたいですか。	「ありがとう」という感謝の気持ちがなぜ大切なのかを考えさせ、今後の自分はどのように生きていくのかについて、より深く考えさせる。

ワークシート

人のフリみて

① バスの中のやり取りに、あなたはどのような印象を持ちましたか。例) 筆者と同じように、爽やかに感じた。

② 「ありがとう」という言葉にまつわる、あなた自身の体験があれば、そのエピソードを記入しましょう。例) ~のとき、「ありがとう」と言われて嬉しかった。

③ 「ありがとう」という言葉には、どんな力があると思いますか。例) 1日を良い気分にさせてくれる。
[個人]

[グループ]

④ 「ありがとう」という言葉を、今後どのようなときに使っていきたいですか。

資料「人のフリみて」

この前、友人と二人の北海道旅行で、洞爺湖温泉行の長距離バスに乗っていた時のことである。バスは空いていたが、ちょうど学校の部活の終わる頃だったのか、途中でいくつかの学校の生徒たちが乗り込んで来ては、一人ずつ降りていった。

降りる時、皆、何か一言運転手さんに言っては降りていくのである。何と言っているのだろうと耳をそばだてると、「ありがとうございます」だった。運転手さんもそのつど「気をつけて」とか「どうも」とか返している。今時の高校生が、一人一人皆運転手さんに「ありがとう」と言って降りていくのである。急に旅の先行きがさわやかになる思いだった。

バスは山に入るともう乗客は私たちだけになってしまったから、気さくそうな運転手さんのそばの座席に移動しておしゃべりしはじめた。まず先ほどの高校生たちの降りる時の「ありがとう」に感心したことを言うと、「ずっとお互い声かけあってるからねえ、皆いい子たちだよ。東京じゃそんなにめずらしいことですか」と言う。その口調に、単なるバスの運転手・乗客という関係以上の、同じ地域に住む者同士のあたたかくさりげない絆が感じられた。いいとこだなあ、と思った。

私は幼い頃から、恥ずかしがりやで口下手だったので、どうしてもうまく「ありがとう」が言えずに大きくなってしまった。でもいろいろな「ありがとう」をきくうちに、この言葉の持つ不思議な力を思うようになった。気持ちのよい「ありがとう」をきくたびに、自分も真似して言ってみたいと思った。

タクシーを降りる時、「ありがとう」と言って代金を渡した先輩をみて、カッコイイと思ったので、まずはそこらへんから試してみようと。でも慣れない私が「ありがとう」と言うのは、どうも偉そうで気が引ける。「ありがとうございます」では丁寧すぎてかえっておかしいし、思い切って「どうもありがとう」と言ってみた。そしたらこれが自分にちょうど具合がよかった。以来、スーパーで買い物した時もレジの人に「どうもありがとう」と言って代金を払う。勇気を出してあちこちで言ってみるようになったら、段々さりげなく言えるようになった。

思えばよく見ると私たちは毎日たくさんの様々なものに守られ、助けられ、支えられて生きているのだけれど、それをあたり前として受け流している。いちいちお礼なんて言わない。お金を払っているから、仕事なんだから、当然と思っている。私は日頃言いそびれている「ありがとう」に気がついた時、素直に言葉にして伝えたいと思う。

例えば、診察をしてもらったお医者さんには必ずお礼を言うけれど、補佐している看護師さんにはほとんど言っていない。デパートなどでトイレを使わせてもらった時、お掃除のおばさんにすれ違って、なかなか「ありがとうございます」とは言えない。でも、私はこういう、裏方で大変な仕事をしている人たちこそ、言いたいと思う。

相手に一言感謝の気持ちを伝えることだけで、自分も晴れやかな安堵感に満たされるし。

安堵と言えば、憧れの先輩（漫画家）に、たいしたことのない用で電話をした時のこと。忙しい方だから追い込み中だったらドーしょーとか、ご迷惑じゃないかとか、さんざん悩んだ末に思い切ってかけてみたら、丁寧にゆったりと対応してくださって、最後に「お電話、ありがとうございます」と言ってくださったのにはびっくり。ほっとして、じわーんと体があつたかくなった。以来、私も真似て、うれしい電話をもらった時には最後に「お電話ありがとうございます」と言うようにしている。そうして心をこめて「ありがとう」を言っているうちに、人見知りの私にもいつのまにか友達がいっぱい増えてきた。

生きることは時々しんどくてゼイゼイすることもあるけれど、そんな時、周りの誰か、人に限らず、犬や猫、健気に咲いている野の花や、あたたかい日射しなんかに、「ありがとう」と言ってみる。そうすると心が落ち着き、大丈夫という気持ちになってくる。

今では私にとってこの言葉は、安らぎと勇気を与えてくれる呪文のようなものになっている。

3. 模擬授業の実施

1 コマ 45 分を目途にして、2 名の学生が模擬授業を行うことにしている。授業は、同じゼミ内で行うと緊張感に乏しく、内輪の会になってしまう危険があるので、他学年と合同で行うことにしている。時間割編成上、授業の重複等で模擬授業の日程調整に毎年苦勞するが、今年度は 1 年次の基礎演習Ⅱ（月 2 限）と 2 年次の教職演習Ⅲ（木 4 限）を数回合同授業として、授業に支障のない限り、ゼミ 3 年生に参加するよう求めた。

なお、通常の専門演習Ⅱ（火 5 限）は日程通り開講し、教材研究・学習指導案作成、個別指導等を行った。

また、授業に際しては、授業者を除く全員に簡単なコメント（「良い点」「改善すべき点」）を記名式で記入することを求めた。

さらに、授業者には、教育実習の予備実習という意味も込めてスーツ着用とした。また、授業のふりかえり用に全員 DVD にて授業を撮影した。

4. 模擬授業のふりかえり

模擬授業のふりかえりとして、学生から集めたコメントを翌週『みんなの声』として編集し、配布している。ここでは、教員の感想も加えている。

みんなの声	
良い点	改善すべき点
<p>ことわざの意味について、最初中学生には難しいとの判断で、教師が説明を分かりやすく加えている。</p> <p>教師の範読は、声の通りも良く、抑揚もあり聞き取りやすい。読み聞かせがうまい。</p> <p>場面や登場人物について生徒に説明させ、イラストを用いて分かりやすく理解させようとしている。</p> <p>グループワークに際しては、リーダーを決めて円滑な議論を進めようとしている。また、発表者を別に決めて、授業へ全員参加をよう配慮している。A 班、B 班というように、はっきり名前を付けているのも良い。</p> <p>板書も図を用い、分かりやすくしている。</p> <p>ワークシートに例文が書いてあるので、作業に入りやすい。</p> <p>☆を用いて、生徒の良い意見を掲示している。机間指導を行って、生徒の学習状況の把握に努めている。</p> <p>まとめの箇所では、日常茶飯事の中から例え話をしているので、説得力がある。</p>	<p>語尾がやや下がるのが気になった。</p> <p>もう少し生徒同士の話し合いや教師と生徒のやり取りがあっても良いと思った。</p> <p>ワークシートをやった後の流れが少し単調だった。</p> <p>「ありがとう」と言うことも大切だが、逆に相手から言われたいというところ、尚良かった。</p> <p>黒板の下の方の文字が見難かった。</p>
<p>感想</p> <p>授業構想がとても良く、この授業で何を生徒に伝え、考えさせたかったのかが一目瞭然で分かる授業でした。大変良く教材研究がなされており、板書計画、ワークシートの使用、グループワークの取り組みも生徒が全員授業に参加できるよう工夫されていました。また、授業の決まりごとを生徒にしっかり提示し、学習ルールに則った締まりのある授業でした。</p> <p>イラストも適宜使用されており、気難しくなりがちな道徳の授業を先生の持ち前の笑顔で乗り切った点も凄いです。「ありがとう」の言葉には力があるという、この授業の真髄がほんわかと伝わってくるような素晴らしい授業でした。</p>	

【資料 2 『みんなの声』】

5. 評価

次に、評価について述べておきたい。平成 28 年 2 月 5 日に行われた本学 FD 研修会において、「教職ゼミにおける模擬授業の取り組み—教育実習における学習指導力の向上をめざして—」と題する講演をシンポジストの 1 人として行ったが、その際、こうした模擬授業の評価の問題について質問を受けた。無論、専門演習Ⅰの授業の一環として、教材研究→学習指導案作成→模擬授業の実施というプロセスを経るが、模擬授業自体は 1・2 年生の授業（1 年次は「基礎演習Ⅱ」、2 年次は「教職演習Ⅲ」）で行うため、専門演習Ⅱ自体の授業評価とは直接切り離している。したがって、直接模擬授業の出来、不出来を評価対象とはしていない。

勿論、模擬授業自体の評価基準を開発して、いくつかの指標に照らし合わせて行う評価も今後必要になってくると思う。目下の所、学生に対する『模擬授業を終えて』と題するレポート、さらにはそれに先立つ『みんなの声』での教員の感想が取えて言うとは評価になると考えている。さらには、3 年次の間に二度の模擬授業を行うことで、前回よりも学生が PDCA サイクルにより、自らの授業の省察を行い、教育実習に向けてより良い授業ができるよう、研鑽を積み重ねていくことが真の評価につながると確信している。

おわりに

保健の模擬授業と同様 VTR 撮影を行い、ふりかえりに供するよう配慮した。学生にはそれを模擬授業終了後の反省として利用するため、撮影した DVD を配布した。

まとめとして、模擬授業を実施するに当たってのメリットや課題について述べたい。学生の多くから得たレポートや模擬授業の感想には、次のようなことが書かれている。

- ・他の学生の授業を参観することで、自分自身の授業への参考、改善に資することができる。
- ・ゼミ生間の刺激や切磋琢磨につながる。
- ・ゼミ生間の教職への意識の高揚、協働にもなる。
- ・他の学年に対して模擬授業を行うことにより、良い意味での緊張感にもなり、かつ教職を目指す後輩学生への刺激にもなる。

また、課題としては、次の点が挙げられる。

(a) 既存の授業（「保健体育科指導法」「道徳指導法」）との関連付け

既に述べたように、既存の授業において学生は、保健体育は言うまでもなく、道徳においても指導法の授業を受けている。また、そこでは部分的に模擬授業を経験している。要はゼミ生に限定されるとは言え、こうしたそれぞれ体験がどのように彼らに影響を与え、学習指導力の向上に役立っているかということである。担当者によっても指導方法は異なるし、学生の受け止め方も千差万別である。こうした授業での経験とゼミでの体験をどのようにマッチングして、彼らの指導者としての資質・能力向上に役立てていくかが今後の課題であることは言うまでもない。

(b) 専門演習における模擬授業の位置付け

本来、専門演習は卒業論文作成のための授業であり、卒論のための資料収集、調査、仮説の設定・検証、プレゼンによる発表等を中心に行うべきものである。無論、本ゼミにおいても卒論作成のための機会を設け、卒論テーマの設定、進捗状況報告書、資料収集等の時間も設定している。また、個別指導も時には授業時間外にも設定して、個々の学生の卒論指導に当たっている。

しかし、本学部スポーツ教育コースでは、AP(Admission Policy)、CP(Curriculum Policy) DP(Diploma Policy) において、中学校・高等学校の保健体育教師を養成することを掲げており、シラバス、授業に

においても教職科目（「教科に関する科目」「教職に関する科目」）を本コースの卒業科目として設定し、必修化している。したがって、教育実習における授業指導力の育成をめざした模擬授業の取り組みも本来の趣旨に合致したものと言えると思う。

(c) ゼミ運営の在り方

今日の学校においては、「チーム学校」の提唱や教員間の同僚性による、教員間の協働に基づく学校運営の必要性が声高に叫ばれている。さらに、教員採用試験においても、集団討論・集団面接の際、受験生の協働性を通して教員として適性を見る傾向にある。様々な学校内外の構成員やステークホルダー（学校関係者や当事者、たとえば保護者、地域住民）とうまく人間関係を構築し、円滑な人間関係の下で教員生活を送れるか否かといった点は、今や教員養成段階において欠くべからざる資質・能力の1つになっている。

したがって、ゼミにおいても学生間の協働が求められるのは、事実である。具体的な場面に即して言うと、他の学生の模擬授業の参観を通して、授業の進め方、学習指導案の立て方、授業に対する感想、アドバイス等、多くの学びの点がある。春学期から秋学期にかけて、ゼミ生間のこうした交流、つながりが次第に高まってきていることも事実である。授業終了後の黒板消し、次の授業を行う学生への準備の手伝いなど、自然発生的に学生たちが自主的に手伝うようになってきたことは、誠に嬉しい限りである。加えて言うと、ゼミ生間の親睦を深めるためのゼミ会もこうした点で、同じ教職をめざす学生間の連帯感、絆づくりに役立っている。

最後に、レポートとして『模擬授業を終えて』と題して、DVDを見た上での感想を書き、提出してもらうことにした。学生に対しては、PDCA サイクル（「PLAN：指導案作成→DO：模擬授業実施→CHECK：振り返り（反省）→ACTION：次回に向けての改善」）に基づき、指導力向上のためのより良いステップアップにつながるよう、期待している。また、その中での「気づき」が大切であることは言うまでもない。後でレポートを読んでもと、保健の時と同様、さまざまな斬新な気づきが見られた。

なお、Appendix として、『模擬授業を終えて』と題する 3 年生のレポートを掲載しておきたい。また、模擬授業を受けた 1・2 年生にも同様のレポートを課し、生徒役からのコメントを受け取っている。『模擬授業を受けて』と題する 1・2 年生のレポートをいくつか掲載しておきたい。

Appendix

【学生の感想】

(1) 『模擬授業を終えて』（3 年生）

春学期は保健の模擬授業を行い、秋学期は道徳の模擬授業を行いました。実際に授業を行ってみて保健の授業とはかなり違い、とても難しく感じました。保健の授業では生徒に答えを求めた時に、生徒から出た発言が正しいか間違っているか区別がつかず。しかし、道徳の授業では正解がありません。私が質問し予想していた答えとは違うことが返ってきた時、対応の仕方が難しかったです。国語の読み取りで終わってしまうのではなく、道徳の資料を通して生徒の日常生活にどのようにつなげるか、教師の説話がとても大切なことがよくわかりました。

指導案の作成では、生徒にどのような考えや規範意識を持たせるか考える必要がありました。発問の設定の仕方は、資料がしっかり読み取れ、考えにつなげるように若いお母さん、運転手、乗客と三つの立場の気持ちを理解できるようにしました。そのことにより、思いやりの連鎖について生徒に理解させやすかったと思います。

板書では、生徒に見やすくどのような資料の内容なのか、板書を見るだけでわかるようになりました。模擬授業を行う前に、他の小学校の道徳の授業を見学できる機会がありました。その時に、小学校の先生はフラッシュカードだけではなく、登場人物の絵やお話しから日常生活につながっている絵などを用いて授業を行っていました。道徳は前後の話の流れから、今後の日常生活にどのように活用していくか、考えなければいけないと思います。話の流れを誰が見てもわかるように、登場人物を実際に絵に出し、工夫しました。最後自分で板書を見た時に、見やすい板書になっていたと思います。しかし、模擬授業を聞いていた生徒役の人からの感想の中で、最後のまとめが中途半端であったと指摘がありました。そこだけではなく、生徒からの発言を黒板に書く時には、言葉を補う、線をつなげるなどの配慮まで必要だと感じました。

授業内容では、自分で資料を範読するようにしました。会話文や擬音語、擬態語を強弱をつけることにより、情景や登場人物の心情が伝わりやすくなりました。生徒の発問には必ず反応し、困っている生徒には机間指導を通して考えが浮かぶように声をかけました。授業の時に参加できない生徒が 1 人も出ないように、1 人で考える時間でも必ず赤ペンを持ち、発言時に自信を持たせるようにしました。発言する機会を必ず作るようにするために、グループワーク中に考えを発表するようにしました。道徳の授業は、発言しにくかったり、考えが浮かばないことがよくあり、生徒が参加しにくい授業の一つだと思います。その時に、教師が生徒に発言を促せるように声をかけることが大切だと感じました。手が止まっている生徒には声をかけ、一緒に考えることが保健との違いだと思います。

今回の模擬授業を通して、教師の資料の読み方や語りかけ、声のかけ方により、生徒の考えの幅が広がることがわかりました。生徒の生活につながるような授業の組み立て方は、今後もっと考えていきたいです。今回の模擬授業の経験を生かして、教育実習に取り組んでいけるようにしたいです。

（２）『模擬授業を終えて』（３年生）

二回目の模擬授業を終えて、前回よりはスムーズに授業を展開できたと思います。今回は道徳ということで、他人の話しを自分自身の問題として捉えるために、どのようにもっていくかが悩みどころでした。ただ単に文章を読むだけでは、国語と同じになってしまうので、たくさんグループワークを取り入れるなどの工夫をしました。

生徒側からの改善点として、大きくわけて 5 つありました。

- ・少しかしまりすぎていたので、もう少し柔らかい感じでもよい。
- ・まとめ方にもう少し工夫が必要だ。
- ・机間指導をしながら範読をすると良い。
- ・板書の下の部分が見えづらい。
- ・発問に対して、生徒に考えさせる時間が少なかった。

まだまだ緊張してしまって、かたくなってしまう部分や、まとめ方や話し方などが経験不足だと感じました。教師の説話の部分では、ただ単に話すだけでなく、話し方や間の取り方などを今後は意識し改善していかなければならない点だと思いました。また、ワークシート以外の発問が少し多すぎたしまいました。そのため、時間配分を気にしてしまったり、焦って坦々と進めてしまった部分もあったので反省点として、次回に活かしていこうと思います。

良かった点として、念入りの教材研究や、時間をかけて授業構想を練った部分が、スムーズに授業展開を行えた要因となりました。グループワークの際には、話しがスムーズに進行されるように、リーダーを決めたり、向かい合って話すように指示をする工夫をしました。授業や、グループワークを行う際に約束事をはじめに伝えておくことで、スムーズな授業展開が行えることに気づけたので、今後も取り入れていこうと思います。一回目の保健の授業に続き、発問の解答を生徒に板書させるという方法で、生徒が授業に参加できるような形を探りました。この方法を取り入れることにより、生徒側の反応もよく、教師と生徒がコミュニケーションをとれていたかなと感じます。

フラッシュカードの使用では、かわいいイラストをたくさん取り入れ、生徒が教材の中に入りやすいように準備しました。板書を一目見ただけでもわかるようにした点が生徒の反応もよく、成功部分だったかなと思います。ワークシートでは、考えさせる発問が多かったため、生徒が解答を書く隣に例文を載せておくことで、理解させやすいようにしました。

今後は、範読の際の声の大きさや抑揚をさらに高めていく。また、教師の説話や考えさせる発問のときの間の取り方を改善していく必要があると思ったので、今後授業を行うときには今回の反省を踏まえて意識していこうと思います。

（３）『模擬授業を終えて』（３年生）

今回の模擬授業では、道徳の授業を行いました。中学校では道徳の授業があり、生徒が自ら考え、生きていく中で様々な場面で活用できるようになるためにも非常に重要な科目です。

まず教材選びの点で、自分が行ってきたソフトボールの経験を活かせる部活動についての教材にしました。自分の経験談を交えることでさらに関心を深められると共に、自ら行ってきたソフトボールの教材で、どれだけ良い授業を行えるか試してみたいという思いから、あえてやりやすい教材を選びました。

教材研究の点では、自分自身「この場面ではこんな思いだな」「こんなこともあったな、気持ちがよくわかる」という共感の気持ちばかりだったのが、いざこの教材を授業する際にソフトボールをやってみたことがあるという生徒は非常に少なく、どのように筆者の思いを伝えられるのか、どのように授業展開を行えばよいか不安でいっぱいでした。道徳の授業は自ら考えみんなと意見を共有するため保健体育の絶対答えがある科目ではありません。ここがとても難しいところで、教師の臨機応変な対応、授業を広げていく力が必要となります。そのため教材研究では、自分の体験談をもとに、さらに生徒へ伝わりやすい教材の内容を噛み砕いて基本的な話から進めていこうと考えました。まず根本的にルールがわからない、用語がわからないため、導入のところでは黒板に図示しながら説明を行うことで、内容に入る前に理解して興味を持てるようにしようと考えました。展開の部分は筆者の思いを読み取れるよう、また自分の考えをしっかりと確立できるような発問や私自身の思いを交えた説明をしよう計画しました。特にグループワークでは、1 人 1 人がしっかりと意見を言い合いみんなで共有する場ということで、十分に時間をとり生徒主体でできるよう一番試行錯誤したところでした。道徳の授業では、音読が重要です。教師の読み方次第でこの場面は明るく楽しそうなんだ、ここは逆に暗く落ち込んでいるんだ、不安なんだと感情を読み取れます。「 」のところは、特に

会話文のため筆者の思いや登場人物がどのような感情で話しているのかわかる場面です。抑揚をつけ、声の大きさの強弱など、何回も何回も練習する必要があります。

実際に授業を行ってみて、時間配分の大変さを痛感しました。考えさせる授業は思いのほかうまくいかず、時間が全く足りない。今回は時間内にうまく収めたいと思い行いましたが、まだまだ伝えたいことはたくさんあったし、理解させたい考えさせたい部分はありました。ここは教師の力量が試されるな、と改めて痛感させられました。音読は、少し早口になってしまいました。もっとゆっくり内容が十分頭に入るような読み方を練習する必要がある、と考えさせられました。授業内容は、発問の部分が一定になってしまい、おもしろさに欠けたかなという印象でした。発問し、答えさせという繰り返しが多すぎました。もっと工夫して発問し答えさせ、あえてその発問で解答が 2 つに分かれるようにし、討論させることもおもしろいと感じました。グループワークは、自分なりにうまくまとめられたと思います。3 つのグループに分け、それぞれ意見交換し全体で共有しました。必ず 1 人 1 人意見が言えるように、なかなか言いづらい生徒もメモ用紙に書かせることで、意見を出しやすくするといった工夫も良かったかなと思いました。一番評価したい部分は、まとめの箇所です。まとめは、授業理解をさらに深めるために非常に大切です。一番伝えたいことを分かりやすく教師の望みをわかってもらえるような話し方、この 2 点を意識し自分なりにまとめられたのではないかと思います。

模擬授業を通し、道徳の授業は生きていく中で、生徒が自ら考え行動していくためにも欠かせない重要な科目です。教師が、いかに生徒に考えさせ、今後に活かせるように促してあげるか、一番伝えたいことに気づかせるかが大切です。なかなか難しいが教材研究を十分にし、授業展開をより関心を持たせられるようにするために工夫していくことが、よりよい道徳授業づくりにつながると考えます。生徒主体の授業づくりができるように今回の反省点を改善し、さらにより授業を行えるように努力していきたいです。

(4) 『模擬授業を受けて』(1 年生)

3 年生の先輩方が模擬授業をやっていて、始めに人前でよくあんなに堂々と話せるなと思いました。自分は、人前で話すのはあまり得意ではありません。しかし、教師を目指す者に最も大切だと言っても過言ではないことが、人前で話す能力です。先輩方は、おそらくとても緊張していたと思います。それにも関わらず、授業を受けている生徒にそれを感じさせないように、コミュニケーションを図ったり、生徒 1 人 1 人の質問に答えたり、一定の間を取ったりして、自分のペースで授業を展開していました。

何人の先輩の授業を受けて共通していた部分は、生徒が発言したことを黒板に分かりやすく手短かに書いており、一見些細なことですが教師として生徒に分かりやすく伝えるのは重要なことだと気づかされました。また、授業にもいろいろなスタイルのあることが分かりました。生徒にグループを作らせ、グループで話し合っ授業を進めるスタイル。生徒 1 人 1 人に聞いていくスタイル。生徒に文章を読ませ授業を進めていくスタイル。授業を受けている側としては、様々な授業のバリエーションがあって飽きなかったというのが本音です。

生徒から見て良かった点は、身近な話題や過去の体験談をネタにして、それを授業内容と結び付けていてとても共感しやすく、分かりやすかったことです。また、ある先輩は、生徒 1 人 1 人の解答に赤線を引いて「この部分良いね!」と言ったことに対して、生徒側として「その部分が良いのか」とモチベーションのアップや授業内容の更なる理解につながったことです。僕も、模擬授業などでこれを実践しようと思いました。

今まで模擬授業というものを受けたことがなく、学生がやるものだからそんなに大したことないだろうと思っていました。しかし、実際受けてみると、とても分かりやすく授業を展開していて、自分も 2 年後にあんなふうになれるのかな? と少し焦りを感じました。今回の模擬授業で沢山のことを学べ、今後の自分の糧になりました。ありがとうございました。

(5) 『模擬授業を受けて』(1 年生)

先輩たちの授業を受けて最初に思ったことは、自分も 3 年生になったら、先輩たちのように授業ができるかどうかでした。生徒の前で大きな声を出して、分かりやすく授業を進めていくことが自分はできるだろうか、と不安な部分が出てきました。

先輩は、道徳の授業の資料を作り、分かりやすくリードしていました。自分の気持ちや経験を話すことによって、生徒に授業の理解と自分についての理解、両方混ぜながら授業を進めることにとても関心を持ちました。小学生や中学生は、道徳を面倒臭い授業だと考えるようになります。道徳だけではありませんが、私も当時はそう思っていました。その授業をどうすれば興味を持って受けてくれるのか、このことを考えるのがとても大変なことだと改めて感じました。ある先輩は、登場人物のイラスト像を作って分かりやすく工夫していました。こうすることによって、少しでも授業を理解するための手段の 1 つであることを知りました。また、フラッシュカード(「黒板に貼っていたもの」)を使用することにより、書く時間が省け、その分生徒の意見を聞くための工夫であることも分かりました。このような生徒が知らない所での苦労があるからこそ、先生が行う授業の意義があると思いました。さらに、グループワークの時間を設けることによって、自分だけの意見ではなく、他人の意見も聞けるようになることで、生徒それぞれの受け取り方の違いや意見の違い、コミュニケーションの場としても活用できるので、良いアイデアだと思いました。

先生になる以上は、どうすれば生徒に聞いてもらえるか、興味を持って授業を受けてもらえるかを考えていかなければなりません。そんな時、先輩の授業を受けたことなどを参考にして、自分らしい授業を考えていかなければならないと感じました。

（６）『模擬授業を受けて』（１年生）

３年生の先輩方の模擬授業を受けて、三年間でこんなにも人前で堂々と話せるようになるのだということに驚いた。私も３年生の先輩のように人前で話すことに馴れ、良い指導者になりたい。

３年生の模擬授業を受けて、一番聞き手として感じたことは、話しての心情がそのまま聞き手に伝わってくるということだ。模擬授業を行う前に何回もイメージトレーニングをしてきたという自信や、実際に授業をしてみると、説明がうまくできず悩んでいること、うまく内容をまとめることができず困って様子などが伝わってきた。人前で立ち、話していると、こんなにも聞き手に自分の心情が伝わっていると気づきにくい。しかし、聞き手側になると、話し手の心情がすごく伝わっていることを知り、驚いた。それゆえ、人前では話すときは、堂々と相手の顔を見ながら大きな声ではっきりと話すことが大切だと感じた。

２つ目に感じたことは、１つ１つの言葉を短くまとめて話した方が、聞き取りやすく、理解しやすいということだ。１つの話が長過ぎると、どこが重要なのか明確にならない。また、何を伝えたいのかもはっきりしないので、特に年少者の場合、飽きてしまう児童も出てくると思う。だからこそ、１つの文章は短く、要点をまとめて言うこと、黒板に要点だけを書くことは重要である。３年生の先輩方は、模擬授業の中で段落ごとに内容を区切り、要点をまとめる時間を設けていたので、内容理解がしやすかった。

人に指導をしたり、何かを教える時は、上述のように堂々と自信を持ち、大きな声ではっきりと相手の顔を見ながら話すこと、そして聞き手が理解しやすいように、１文１文短く話すことを意識して指導に当たりたい。これに加えて、自分の経験を交えながら話をすると、聞き手の興味をそそり、良い話ができると思われる。そのためには、沢山の経験を今のうちからしておく必要があるので、様々なことにこれからチャレンジしていきたい。

（７）『模擬授業を受けて』（２年生）

私は、今回初めて模擬授業というものに参加しました。先輩は、１つしか年齢が変わらない筈なのに、スーツを着ていかにももう先生です、といった雰囲気を出して驚きました。

授業では、やはり実際の教師の授業と比べると、授業の流れや目線など、どこか違うところがありました。しかし、声の大きさ、恥じらいのないところ、黒板の使い方の工夫など、真似したいところがたくさんありました。

道徳の授業では、グループワークをたくさん取り入れたほうが、いろいろな人の意見を聞くことができて好いな、と身を以って実感することができました。また、生徒の発言を押し進めるためにも、グループワークは欠かせないなと実感しました。

今回のこの模擬授業を受けて、授業を受ける生徒としてではなく、先輩方を傍から見て思ったこともあります。それは、仲間への愛情です。私たちも、毎回先輩の模擬授業を受けて「良い点」「改善すべき点」について書いていました。しかし、先輩たちは私たちと比べものにならないくらい、たくさん意見を書いていて、本当にその人のためを思って書いているのだな、と伝わってきました。

そして模擬授業を通して、私は１年経った時にこんなにも素晴らしい授業が後輩の前で果たしてできるだろうか、ととても不安に駆られました。人前で話すことが苦手な私が、生徒の前に立ち、なおかつ興味を持ってもらう話の展開を考えなければならない、いざ授業の展開方法を考えてみようと思うと、不安で仕方ありません。

先輩方の指導案を拝見し、私が２年春学期の授業で書いた、毎回同じような指導案とは比べものにならない、と実感しました。

これから１年後には、教採を目前に控えた言うなれば受験生になります。私は、現状では教採の前の教育実習でメンタル崩壊が目に見えています。もっと人前で余裕を持って話せるようになるために、３年春学期のゼミで自主的に発表していき、生徒の前で話のネタとなるような知識を増やしていけたらと思います。

そして、今回模擬授業を受けて感じた声の大きさ、生徒の目をしっかり見る、板書の工夫、机間指導等に気を配りながら、授業が行えるような、そんな素敵なお教師をめざしていきたいと思います。

（８）『模擬授業を受けて』（２年生）

僕は、今まで学生による模擬授業を受けたことがありませんでした。教員をめざしているのに、いつかは自分もやらなければならないと感じていましたが、気持ちは前向きではなく、どちらかと言うと恥ずかしいというような後ろ向きな気持ちでした。

しかし、今回の先輩方の模擬授業の様子を見て、その考えは大きく変わりました。完璧な授業ではなく、まだうまく話すことはできないが、何よりも一生懸命さが伝わってくる授業ばかりでした。できるだけスムーズに授業が進むように、きちんとした指導計画を立て、板書計画もしてそれに向けたフラッシュカードを作成していく。また、できるだけ、生徒役の僕たちが授業内容を理解しやすいように、ワークシートを作成したり、授業の合間に話すことを予め計画したりといったように、模擬授業のためにどれだけ準備してきたのだろうか、と思う程前向きな姿勢を感じました。そんな先輩たちの姿を見て、来年になったら是非今度は生徒役ではなく、先生役として参加したいという気持ちになりました。

ここからは、先輩たちの模擬授業を生徒という立場で見た結果、自分が先生役になった時に気を付けようと思ったことを挙げていきたいと思っています。

まずは、時間についてです。先輩たちの模擬授業では、ほとんどの人がきちんと１時間内に授業をまとめて、長引くことがないように気を遣っていました。また、早く終わり過ぎるという場面もなく、時間配分はとても上手だなと感じました。中には途中で授業の進み具合が遅くなったり、早くなったりした方もいましたが、最後にはきちんと合せていたので、時間厳守、微調整の工夫なども学んでいきたいと考えています。

次に、授業の雰囲気についてです。先輩方は、堂々と授業をされていて、しっかりと準備をしてきたんだなと感じられるような振る舞いでした。しかし一方で、自信がない様子が生徒に伝わると、ガラガラした雰囲気になる、授業が成り立たなくなる危険性があります。気持ちよく生徒が授業を受けられるように、しっかりと計画、準備、反省をして、よい雰囲気の授業が展開できるよう心掛けたいです。

最期に、生徒の意見をしっかりと聞き、反応するという事です。せっかく意見を言ったのに、先生の反応が薄かったら淋しい気持ちになります。生徒の意見を聞き、生徒の気持ちを考えるということは、教育的にも大切なことなので、それを意識した対応をすべきだと感じました。

また、生徒役を経験したことで、自分がやるのではなく、見たり聞いたりすることでも学ぶことがたくさんあるということを改めて感じました。この経験をこれからは活かしていればと考えています。

(9)『模擬授業を受けて』（2年生）

教職演習の授業では、模擬授業を3年生の方々が行ってくださいました。模擬授業を通して、学習指導案の書き方や授業の進め方、ワークシートの使うタイミング、板書の仕方などを学びました。

私は、敢えて授業と指導案を照らし合わせながら、授業を受けました。3年生の方々は、皆さん指導案に沿って授業ができていました。指導案がしっかり書いていけば、指導案通りに授業を進めていけば良いことが分かり、指導案の重要性を知ることができました。

授業の進め方に関しては、授業の導入と終末（まとめ）に注目していました。授業をしていくうえで、導入の部分は大切なおところだと思っています。その大切な導入をどうやって行っていくのか、とても興味がありました。ほとんどの方は、生徒（私たち2年生）に質問を投げかけ、授業のテーマに近い内容を自然と考えさせていました。終末の部分では、教師自身の体験談を混ぜながら、授業内容をまとめてくれた授業が記憶に残っています。教師自身の体験談を交えて話しながらやるのも好きな、と思いました。また、このような導入、終末のやり方は、とても参考になりました。

板書の仕方については、フラッシュカードをうまく利用すると、授業がスムーズに進むなと思いました。3年生の方々は、丁度良いタイミングで、フラッシュカードを活用していました。板書とフラッシュカードをうまく使い分けることで、より良い授業になることを学びました。フラッシュカードを使用するタイミングに気を付けながら、板書ができるようになれば良いなと思いました。

どの方も、とても丁寧に授業をしてくださいました。授業を行う方のメモを見たら、事細かくプリントに書き込みがしてありました。1回の授業のために、どれ程の時間を準備に費やしたのか、そのメモ書きを見ただけで分かりました。授業を行うことの大変さを改めて感じました。

自分で教材をいちから準備し、限られた時間内に授業をするための細かい授業計画をしていくことが、今の私にできるか考えてみました。自分が3年生の終わる頃には、このように授業ができるよう、今以上に気を引き締め勉学に励んでいきたいと思っています。

3年生の方々の良い点は真似して、自分のものにしていき、改善したほうが良いところは改善し、今後の参考にしていこうと思います。指導案の書き方は、講義で学んだことはありましたが、授業の進め方や板書の仕方は今まで細かく習ったことはなかったので、とても良い勉強になりました。実際に模擬授業を受けてみなければ、学ぶことができなかつたことがたくさん学べ、自分が教員になった時に役立つことを吸収できました。